

# 議事

- 1 . 編修長あいさつ 林編修長
- 2 . 査読マニュアルについて 林編集長
- 3 . 論文投稿・掲載状況 岩路D2主査
- 4 . 電子査読システムの運用状況について  
岩路D2主査
- 5 . 論文委員意見と回答 岩路D2主査
- 6 . フリーディスカッション

# D部門論文委員会 幹事団（H19年度）

編修長 林 洋一（青山学院大学）

編修長補佐 大石 潔（長岡技科大）

## D1グループ（パワーエレクトロニクス）

主査 佐藤 之彦（千葉大学） ほかに幹事5名

副主査 田中 俊彦（山口大学）

## D2グループ（産業システム）

主査 岩路 善尚（日立製作所） ほかに幹事7名

副主査 大山 恭弘（東京工科大学）

## D3グループ（電気機器）

主査 水野 勉（信州大） ほかに幹事5名

副主査 山崎 克己（千葉工業大学）

# 1 . 編修長あいさつ

林 洋一 編修長

論文をよりよいものにしよう！

編修作業をより透明にしよう！

論文の著者と査読者に共通認識を  
持っていていただくことが重要

査読マニュアルの周知・徹底

論文委員会ホームページの活用

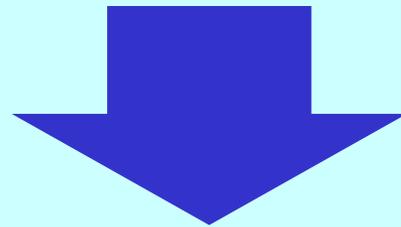
ニュースレターの積極的な活用

## 2 . 査読マニュアルについて

林 洋一 編修長

## 査読マニュアルの目的

- 論文査読の基準を明確にすること。
- 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。



- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。
- 読みやすい理解しやすい論文を論文誌に掲載すること。

## 部門誌論文・査読の基本的考え方

- ・ 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- ・ 論文の査読は論文指導ではない。
- ・ 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。

投稿者は評価に耐えられる論文を作るよう、  
査読者は論文を早く取り上げるよう努力をすべき。

- ・ 次の論文を出したくなるような査読をすべきである。

何でも掲載すればよいというのでは勿論ない。  
論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力がなくなる。

## 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか。
- 新規性，創意性，有用性のいずれかが認められるか。技術面のみならず、考え方や纏め方、各種応用上の問題点の指摘など、広い観点からの新規性、創意性、有用性の判断がポイント
- 明白な誤り，矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が，むすびで結論付けられているか。
- 同一内容，類似内容が発表されていないか。
- 論文の完成度は掲載可能な水準に達しているか。

## 判定の基準

- 判定は4段階とし，以下の基準による。
  - 1) エディトリアルな修正のみ：掲載(A判定)
  - 2) 修正内容が推奨項目 (Suggested change)のみ：照会后掲載(B判定)
  - 3) 修正内容に必須項目 (Mandatory change)を含む：照会后判定(C判定)
  - 4) 論文の要件を具備していない：返送(D判定)
- 完成度が低く内容が分かり難い等で照会后判定(C)の従来ケースは，返送(D)で再投稿を促す。したがって，返送(D)は，必ずしも新規性，創意性，有用性を否定する場合だけでない。
- 照会后掲載(B)，照会后判定(C)は1回のみ。

## 照会文の書き方(A, B, C判定)

- 1) 必須修正項目 (Mandatory change) ,  
2) 推奨修正項目 (Suggested change) ,  
3) エディトリアルな修正項目 (Editorial change) に分け , 判定の根拠を明確に記載する。
- 1) の必須項目のある論文は , 照会后判定 (C) とする。
- 2) の推奨項目と3) の項目のみの論文は照会后掲載 (B) とする。
- 3) の項目のみの論文は掲載 (A) とする。

## 返送文の書き方(D判定)

- 理由を具体的に，明確に記載する。

既に発表されている論文\*\*との違い，優位性が明らかでない，あるいは，同一内容である。

論文の目的・主張・効果などが，論文記載のデータ，実験方法では確認できず，創造性等が認められない。

理論式の展開の\*\*部分に誤りがある。

シミュレーション，実験で用いている変数，定数の値が理論式の仮定の範囲を外れ，理論の検証になっていない，等。

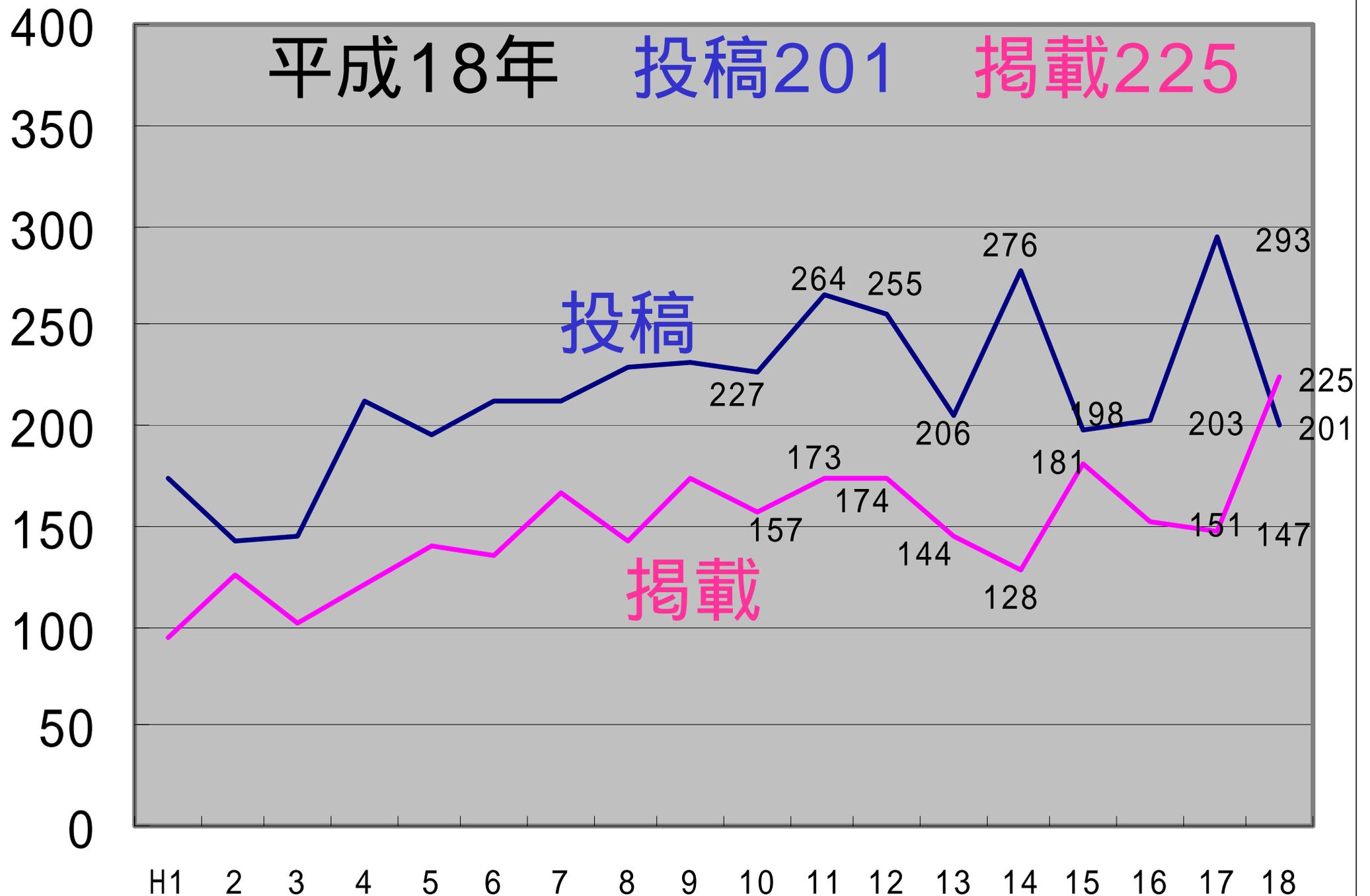
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については，修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。

## その他

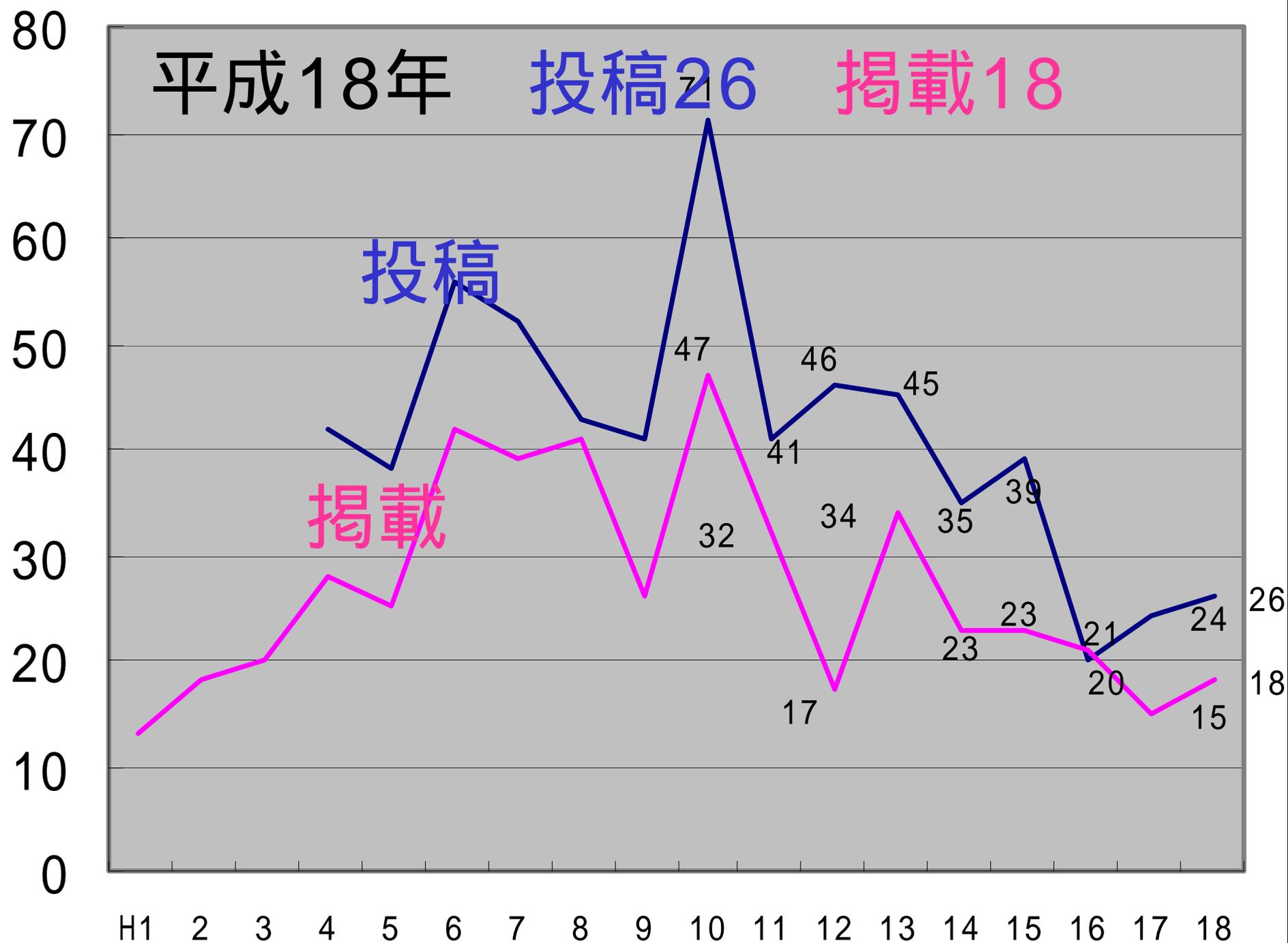
- 掲載決定論文の内容の変更は，原則として誤字，脱字，フォントの不一致など，editorialな修正を除いて一切認められない。
- 掲載決定後，最終原稿を作成する過程で意図的に論文として不適切な文言を追加したことが明らかになった場合には，掲載の決定を取り消す場合がある。
- 本マニュアルの内容は常に改善ができるように，定期的に見直しを行うこととする。

# 3 . 論文投稿・掲載状況

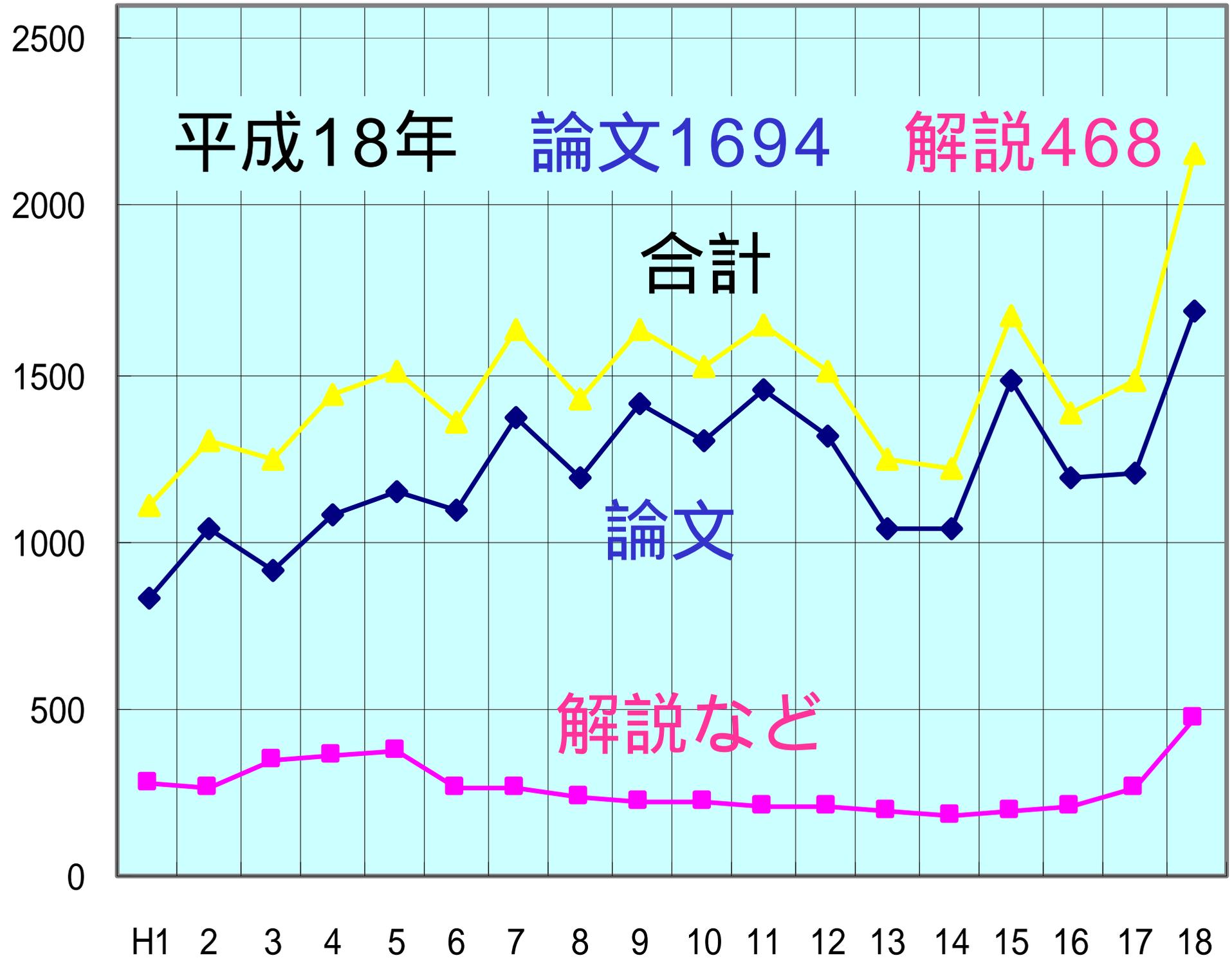
# D部門 論文投稿・掲載件数の推移



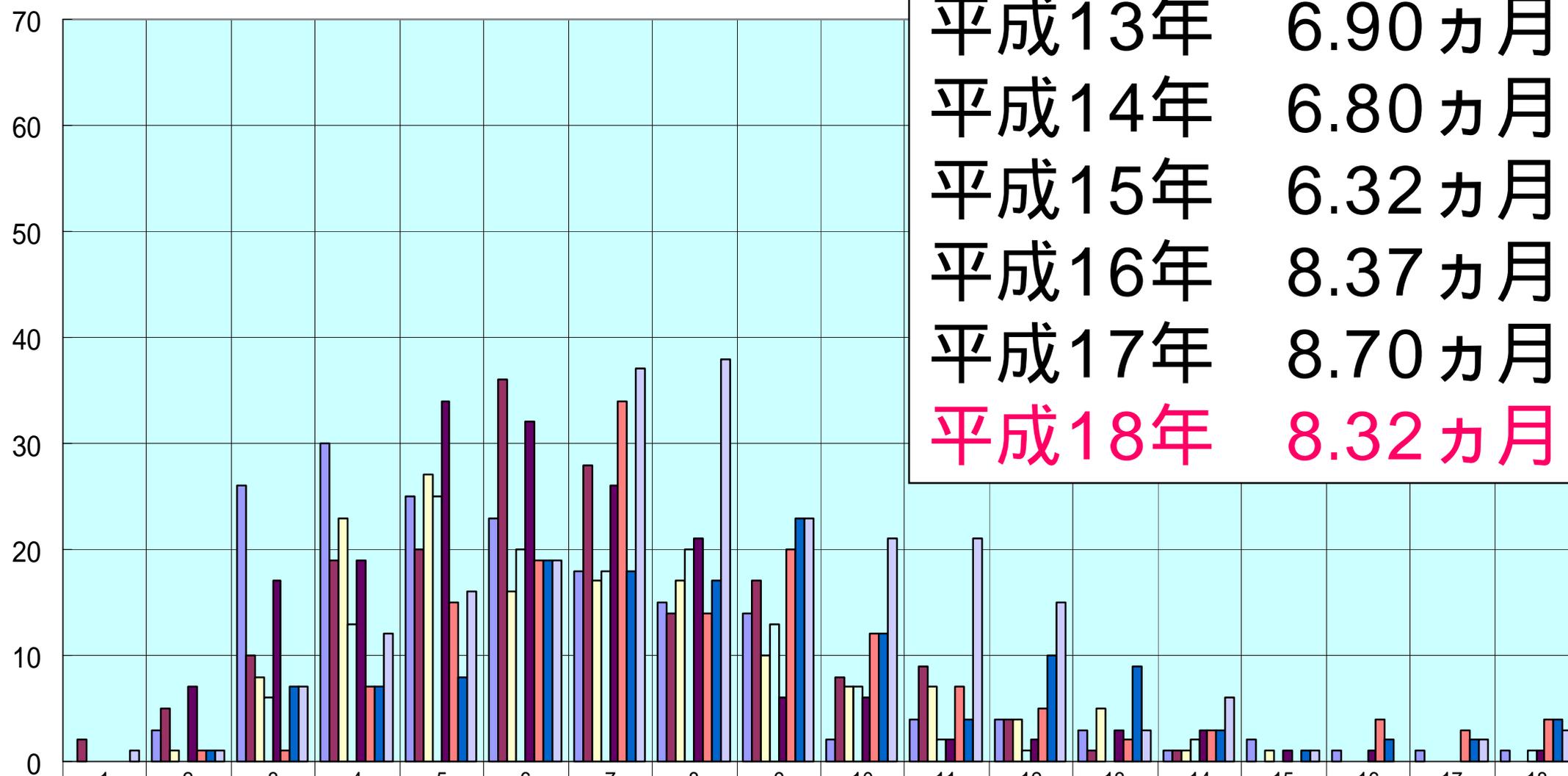
# D部門 研究開発レター投稿・ 掲載件数の推移



# D論文誌の発行ページ数の推移



# 論文掲載決定までの所要月数（論文誌D）

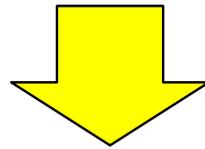


平成13年	6.90ヵ月
平成14年	6.80ヵ月
平成15年	6.32ヵ月
平成16年	8.37ヵ月
平成17年	8.70ヵ月
平成18年	8.32ヵ月

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
H11.1-12	0	3	26	30	25	23	18	15	14	2	4	4	3	1	2	1	1	1
H12.1-12	2	5	10	19	20	36	28	14	17	8	9	4	1	1	0	0	0	0
H13.1-12	0	1	8	23	27	16	17	17	10	7	7	4	5	1	1	0	0	0
H14.1-12	0	0	6	13	25	20	18	20	13	7	2	1	0	2	0	0	0	1
H15.1-12	0	7	17	19	34	32	26	21	6	6	2	2	3	3	1	1	0	1
H16.1-12	0	1	1	7	15	19	34	14	20	12	7	5	2	3	0	4	3	4
H17.1-12	0	1	7	7	8	19	18	17	23	12	4	10	9	3	1	2	2	4
H18.1-12	1	1	7	12	16	19	37	38	23	21	21	15	3	6	1	0	2	3

## 最近の傾向

- 1回目の査読の戻りが遅い。
- 査読の早い委員に負荷が集中。
- AD, BDなど, 判断が分かれる査読結果も増えている傾向。



## 対策

- 電子査読システムの導入。
- 査読ポリシーをマニュアル化し, 査読側の意識を統一する。

## 4 . 電子査読システムの 運用状況について

## 運用状況

- ・平成18年1月から，本格運用開始。  
6/12時点で，  
Webシステムによる登録論文336件  
（内レター22件），代理投稿64件。

## 5 . 論文委員意見と回答

意見交換会への出欠連絡回答:123件(出席64人)  
意見・質問:5件

Q1: 論文意見交換会は、論文委員会で議論している動向が分かって良いです。

議事メモなどがあると、出席できない年でも状況が把握できてより良いように思います。

A1: 議事内容については、論文委員会ホームページを活用していきたいと考えてます。

Q2: 幾つかの他学会において、論文そのものをPDFで受け付けて、査読結果用紙も電子メールで送ることにより、郵送費と人件費の労力削減を行っています。この方式導入の検討はいかがでしょうか。？

A2: 電子査読システムが、H18年から本格稼働しております。

Q3:近年,大学院生執筆論文が増えており,指導教員がきちんと指導していないように見受けられるものを散見します。

いまいちど,論文の書き方として,章立て,論点の明確化はもちろんのこと,単位や記号の書き方(太字,斜文字),グラフの書き方(本来,大学学部教育で教えるべきことなのですが,論文世界でもレベル低下が認められます)のインストラクション本を,フリーでPDF配信でき,かつ,投稿前にはこれを読んだか否かの確認が必要,というふうになると,投稿論文の質向上に役立つのではと考えます。

A3:

・論文執筆の基本的な考え方は，“論文査読マニュアル”を参考にして欲しい。(執筆内容に関するチェックリストも付いている)

・単位や記号の書き方(太字, 斜文字), グラフの書き方等は, 電気学会のHPからダウンロード可能。

(電気学会論文誌への投稿手引(pdfファイル))

・論文の書き方(“章立て”, “論点の明確化”など)は, 本来, 大学で指導すべきことと認識。

“論文執筆マニュアル”のようなものを, 今後, 論文委員会(あるいは電気学会)として作成していくかは, 別途議論していきたい。

Q4: 4月より引継いだ新任委員です。処理のノウハウをうまく引継ぐことができず、主査にご迷惑をお掛けしています。下記の場合の処理マニュアルを電子化してHPから参照できると助かります。

- ・査読依頼を辞退してきた場合の処理
- ・査読結果がなかなか返ってこない場合、どの程度待ったら催促できるか。
- ・査読結果が帰ってきた後の処理方法
- ・判定A、B、C、Dの場合の処理。

A4:

- ・論文委員会HPにて、マニュアルは公開されています。
- ・マニュアルの内容についての見直しは、論文委員会・主査会で、随時実施して行く。

Q5:最近、私の担当の査読件数が多いような気がします。多分、特集号の企画のためかと思いますが…。論文委員会の担当の方のそれぞれから送られ、合わせると1～1.5件/1月くらいになっています。

どの程度が適切なのか、平均としてはどこを目指しているのかをご検討頂ければ幸いです。

人並みの査読件数については、協力させていただきたいと思いますが、1件/2ヶ月くらいが適当な件数と思います。

A5:現状、各論文委員の査読件数については把握可能であるが、平均件数の把握はできていない。主査、幹事の判断による。主査会にて議論したい。

# 6 . フリーディスカッション